

【会員通信】

鬼ヶ城山系からのヤマネの記録

平松 亘

愛媛県宇和島市を背後から取り囲むようにそびえる鬼ヶ城山系は、最高峰の高月山(標高1,229m)や、この山塊の名前の基となっている鬼ヶ城(標高1,152m)などの海拔1,000m級の山々よりなり、ブナ林を主とする冷温帯性の落葉広葉樹林で構成される豊かな自然林が残されている。宇和島市誌(早見, 2005)によると、鬼ヶ城山系は野生動物の宝庫であり、特にほ乳類の多様性と生息数は県内でもきわめて高い地域であると述べられ、ニホンシカ、ニホンイノシシ、ニホンザル、タヌキ、ホンドギツネ、ニホンアナグマ、ニホンリス、ニホンノウサギ、ニホンモモンガなどの哺乳動物が生息すると報告されている。また、その他に過去に生息していた哺乳類として、ツキノワグマ、ニホンカモシカ、ヤマネの3種があげられ、これらのうち、ツキノワグマは絶滅した可能性が高く、ニホンカモシカは1952年当時には確認されていたが、近年の状況は不明である。ヤマネも「1964年当時には生息していた」と書かれているのみで、標本、写真などによる生息を証明する確実な記録はない。筆者は2005年10月9日、鬼ヶ城山系にハイキングに出かけ、その帰路の登山道でヤマネを確認した。ここに写真に基づいた、鬼ヶ城山系における本種の確実な生息記録として

報告する。

ヤマネ *Glirulus japonicus* はネズミ目ヤマネ科に属する日本固有種であり、国の天然記念物に指定されている。本種は背中に1本の黒い縦帯がある際立った特徴を持つことで、他のネズミ類などから簡単に区別できる。分布域は本州、四国、九州と隠岐島で、森林の樹上で暮らし、夜行性で通常は単独で生活する。愛媛県では絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定され、新宮村、西条市、面河村、北条市、松山市、四国カルストなどから記録されている(山本, 2003: 市町村名はいずれも近年の合併以前のもの)。

確認時の状況 2005年10月9日、やや暗くなりかけた16時50分頃、鬼ヶ城山系の登山道を下っていたとき、著者の真後ろを歩いていた友人が、登山道の路上に毛玉のような物が転がっているのに気が付いた。よく見ると、それはネズミのような動物で、道の上で丸くなっていた。大きさは大人の手の中にすっぽり収まるほどであった。毛の色は全体に薄い茶色で、頭頂部から尾にかけて黒い縦帯が走っていた。尾は体よりやや短く、そこに長い毛が見られ、その毛の色は体色よりやや黒味を帯びていた(図1)。個体はこうした外観的特徴からヤマネであることがわかった。著者は以前に高知市のわんぱーくこうち・アニマルランドにおいて、檮原町で保護されたヤマネを見た経験があり、そのことも同定の参考になった。個体は当初動かなかった。死んでいるかと思い、拾い上げると直ちに活動を開始した。かなり興奮していたため、写真撮影後すぐにそばのササ類の藪の中に放した。外観上、特に怪我などは観察されず、放たれた個体は直ちに藪の中へ消えていった。



図1. ヤマネ (2005年10月9日撮影)

引用文献

早見萬之助. 2005. 第一編, 第6章, 第二節, (一)

哺乳類, 脊椎動物. 宇和島市誌編さん委員会(編),
宇和島市誌. pp.65 - 70.
山本貴仁. 2003. 哺乳類. 愛媛県貴重野生動植物検
討委員会編, 愛媛県の絶滅のおそれのある野生生
物. 愛媛県県民環境部環境局自然保護課. pp.32.

南予生物 16 : 76 - 77, (2010 年 6 月 29 日受付)

連絡先 平松 亘 (〒 798-0053 宇和島市賀古
町1-4-14)